

単年度水道事業評価シート(令和元年度)

1 事業情報

担当課

浄水課

目指すべき方向性	安全	基本政策	1 安全・安心な水道水の確保	施策	1-1 水源の保全と確保	事業	1-1-1 県水受水の安定化
----------	----	------	----------------	----	--------------	----	----------------

2 事業評価の概要

視点	内容																																																																								
何のために【政策】	お客様がいつでも安心して水道を利用できるよう、水道事業者や水道施設の設置者と連携を図りながら、安全な水源を確保し、水道水がお手元に届くまでのすべての過程で安全かつ良質な水質を保ちます。																																																																								
どんな問題を解決するか【事業目的】	・埼玉県から購入する原水(県水)の安定的な受水を図るため、埼玉県との連携を強化します。																																																																								
どのような道筋で【目標】(単年度)	①水需要及び配水量の実績をもとに、次年度の受水量を的確に予測し、県水受水量を確保します。 ②事業1-1-2「自己水源の確保」と合わせ、安定給水量の調整を行います。 ③埼玉県との情報交換を密にし、連携強化を図ります。																																																																								
期間	平成31年4月 ~ 令和2年3月																																																																								
いくらかけて【予算額・決算額】	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">予算額</th> <th colspan="3">決算額</th> <th>執行率</th> </tr> <tr> <th>単位:千円</th> <th>総事業費</th> <th>収益的支出</th> <th>資本的支出</th> <th>総事業費</th> <th>収益的支出</th> <th>資本的支出</th> <th>単位:%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費計</td> <td>3,861,147</td> <td>3,861,147</td> <td>0</td> <td>3,843,512</td> <td>3,843,512</td> <td>0</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>工事費</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原材料費</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>委託料</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>賃借料</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3,861,147</td> <td>3,861,147</td> <td></td> <td>3,843,512</td> <td>3,843,512</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>4,345</td> <td>4,345</td> <td></td> <td>4,345</td> <td>4,345</td> <td></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	予算額				決算額			執行率	単位:千円	総事業費	収益的支出	資本的支出	総事業費	収益的支出	資本的支出	単位:%	事業費計	3,861,147	3,861,147	0	3,843,512	3,843,512	0	100%	工事費	0			0				原材料費	0			0				委託料	0			0				賃借料	0			0				その他	3,861,147	3,861,147		3,843,512	3,843,512		100%	人件費	4,345	4,345		4,345	4,345		100%
	予算額				決算額			執行率																																																																	
	単位:千円	総事業費	収益的支出	資本的支出	総事業費	収益的支出	資本的支出	単位:%																																																																	
	事業費計	3,861,147	3,861,147	0	3,843,512	3,843,512	0	100%																																																																	
	工事費	0			0																																																																				
	原材料費	0			0																																																																				
	委託料	0			0																																																																				
	賃借料	0			0																																																																				
その他	3,861,147	3,861,147		3,843,512	3,843,512		100%																																																																		
人件費	4,345	4,345		4,345	4,345		100%																																																																		
どういふ成果を達成するか【成果指標】	①水需要及び配水量の実績をもとに、次年度の受水量を的確に予測し、適切な県水受水量が確保できた状態。 ②事業1-1-2「自己水源の確保」と合わせ、安定給水量の調整ができた状態。 ③埼玉県との情報交換を密にし、年間を通じて安定した受水を継続できた状態。																																																																								

3 プロセス結果の検証

評点	視点	内容								
中間評価	上半期何をどのように執行したか【現状把握】	①給水人口と一人一日平均配水量の実績から令和2年度の県水受水量を予測し、その値を県へ報告した。 ②気温が上がらない時期や猛暑が続くことがあり、見込んでいた水需要と乖離が生じたが、自己水源を利用し、安定した給水量が確保できた。 ③県水の圧力や残留塩素濃度の変動に対して、安定受水できるように埼玉県企業局と情報共有を行なった。また、カビ臭物質の検出時などの対応について、県担当者と情報の共有をはかり、連絡体制を維持し安全安心な水道水の確保を行った。								
74点	下半期改善すべき点は何か【改善目標】	①今年度の実績を考慮して効率的な県水受水量を求め、水源の確保に努める。 ②水需要の動向に合わせ、自己水源の井戸水を有効に利用する。下半期は、配水池の清掃や工事による貯水制限、導水管工事による取水制限があるが、安定した水源の確保に努める。 ③安全で安定した県水を受水できるように、県担当者と連携し情報の共有を行う。								
	どのくらい進んだか【進捗度】	<table border="1"> <tr> <td>執行(契約)事業費</td> <td>1,912,005千円</td> <td rowspan="2">事業進捗度</td> <td>自己評価</td> <td>B 予定通りの成果を上げた</td> </tr> <tr> <td>予算執行率</td> <td>50%</td> <td>評価者結果</td> <td>B 予定通りの成果を上げた</td> </tr> </table>	執行(契約)事業費	1,912,005千円	事業進捗度	自己評価	B 予定通りの成果を上げた	予算執行率	50%	評価者結果
執行(契約)事業費	1,912,005千円	事業進捗度	自己評価	B 予定通りの成果を上げた						
予算執行率	50%		評価者結果	B 予定通りの成果を上げた						
終了時評価	どういふ成果を達成したか【達成状況】	①市内の洗管作業排水を考慮した県水受水量を予測し、令和2年度の県水受水量を確保した。 ②事業1-1-2「自己水源の確保」と合わせ、安定給水量の調整ができた。 ③各浄配水場において、工事に伴う県水配分変更があったが、埼玉県との連絡調整を行い安定した県水の受水ができた。								
74点	次年度に解決すべき点は何か【次年度解決策】	①水需要の動向に合わせ県水受水量の配分を決め、効率的な水運用ができるよう努める。 ②渇水時において安定給水できるように、埼玉県と協力体制をさらに強化する。 ③水質事故時に県との連絡体制を維持し、お客様への影響を最小限にする。								

単年度水道事業評価シート(令和元年度)

4 改善経過の点検と評価

視点	項目	評点	5 常に 全員	4 概ね 多数	3 一部	2 あまり~ない	1 ほとんど~ない	中間	終了	
人員	意識	この事業による社会全体への貢献を職員は常に意識していますか？						4	4	
	適材適数	業務の適正に応じた柔軟な偏りのない業務分担を行っていますか？						3	3	
中間	15	成果	課の職員が事業の成果や目的を意識していますか？						4	4
終了	15	連携	この事業に必要な連携(局内・市長部局・委託業者等・県等)はできていますか？						4	4
手段	手段	目的達成に必要な手段や方法は、既成概念に囚われず、新たな視点で検討していますか？						3	3	
	可視化共有	目的達成に必要な手段や方法を、可視化し、情報共有していますか？						4	4	
中間	13	方法	当初計画や予定よりも優れた代替方法を検討していますか？						3	3
終了	13	目的化	この事業は、上位目的達成の手段として有効であることが、組織で理解されていますか？						3	3
工程	進め方	目的を達成する工程が、全体最適の視点から作られていますか？						3	3	
	合目的性	水道利用者の視点に立ち、ニーズや利便性を反映した改善をしていますか？						4	4	
中間	15	学習	課題・問題点が発生したら、その都度、プロセス全体を検証し改善していますか？						4	4
終了	15	当事者意識	職員が主体的に行動していますか？						4	4
予算	利益	上下水道局の利益ばかりでなく、社会全体の利益まで意識していますか？						4	4	
	効果効率	より低いコストで成果をあげる工夫を施し予定以上の費用対効果を出していますか？						4	4	
中間	15	コスト検証	当初計画や予定よりも優れた代替方法による予算の効率的活用が常に検討されていますか？						3	3
終了	15	成果	成果指標を上まわっていますか？						4	4
期間	タイムマネジメント	工程を構造化したタイムスケジュールを可視化・共有し、停滞時間削減に取り組んでいますか？						4	4	
	タイムコスト	時間=コストを意識し、ムリ・ムラ・ムダの検証を行っていますか？						4	4	
中間	16	期間の設定	業務集中を避け、局全体の事業執行を最適化するように期間を設定していますか？						4	4
終了	16	成果達成	短期間で成果を達成するよう、期間を検討し、進捗を確認、期間修正を行っていますか？						4	4

5 事後評価

水道事業ガイドライン業務指標(PI)・独自指標					R1	R2	R3
指標名	【PI B115】給水制限日数	単位	日	目標値	0	0	0
算出式・根拠	(年間給水制限日数)			実績値	0		
指標名	受水予測精度	単位	%	目標値	99.9	99.9	99.9
算出式・根拠	(承認受水量に対する精度)			実績値	99.5		
指標名		単位		目標値			
算出式・根拠				実績値			
指標名		単位		目標値			
算出式・根拠				実績値			
指標名		単位		目標値			
算出式・根拠				実績値			
指標名		単位		目標値			
算出式・根拠				実績値			

視点	自己評価	評価根拠の説明(自己評価の根拠を具体的に記述します。不達成の場合は、原因、改善策を明示します。)						評価者結果
		A=予定以上の成果を上げた / B=予定通りの成果を上げた / C=成果は出ているが予定に達していない / D=結果は出ているが成果は出していない / E=不十分な結果にとどまる、または結果が出していない						
達成度	B	埼玉県企業局との情報交換を密にし、情報共有を継続して実施したことにより、年間を通じて安定した受水を継続できた。 埼玉県企業局との連絡体制を密にし、日々の受水状況を共有し、断水することなく配水することが出来た。						B
効率性	B	常に、井水の稼働状況・揚水量等を考慮しながら効率的な配水に努めた。						B
有効性	B	配水量予測を行うことにより、常に安定的な配水を確保することができた。						B
説明責任	B	関係課所と連携しながら、水質事故や濁水等の情報を収集し、局内で情報を共有した。						B
組織学習	B	不測の水質事故や濁水時等の情報について、ミーティング等により課内で情報共有が出来た。						B
総合評価	B	・今年度の実績に基づいた配水量予測により効率的な県水配分が出来た。 ・今後も埼玉県企業局が主催する説明会や講習会に参加し、万が一濁水や水質事故など異常事態が発生した時においても埼玉県企業局との連絡体制を密にし、連携を継続する。					次年度方針 現状維持で継続	B